

第四章 餘 錄

紀元二千六百年特別觀艦式ニ當リ畏クモ優渥ナル勅語ヲ賜ハリタルヲ以テ同日海軍大臣及觀艦式指揮官ハ夫々左ノ如キ謹話ヲ發表セリ。

海軍大臣謹話

本日ハ光輝アル紀元二千六百年ノ祝典トシテ、特別觀艦式ノ御儀ガ最モ嚴肅ニ舉行セラレ、我ガ艦隊ノ各艦各機ガ畏クモ 大元帥陛下ノ御親閱ヲ辱ウシ、更ニ優渥ナル勅語ヲ賜ハリマシタルコトハ帝國海軍トシテ無上ノ光榮デアリマスト共ニ寔ニ恐懼感激ノ極ミデアリマス、今ヤ聖戰下更ニ皇國未曾有ノ非常時局ニ直面シテ我等海軍人ハソノ責務ノ愈々重且大ヲ加ヘツツアルコトヲ痛感シテ、益々奮勵努力誓ツテ護國ノ大任ヲ全ウシ、以テ聖旨ニ副ヒ奉ルノ覺悟ヲ新ニ致シマシタル次第デアリマス。

觀艦式指揮官謹話

不肖此ノ度光榮アル觀艦式指揮官ヲ拜命シ、本日陛下ノ各艦各機ガ畏クモ 大元帥陛下御親閱ノ光榮ニ浴シ更ニ優渥ナル勅語ヲ賜ハリマシタルコトハ洵ニ有難キ極ミデ御座イマス、參加部隊全將兵ハ齊シク金色燦然タル錦旗ヲ拜シテ士氣益々振ヒ、愈々聖旨ヲ奉體シテ練武ニ精進シ以テ未曾有ノ非常時局ニ對處シ國防ノ重責ヲ完ウセシコトヲ誓ツタ次第デアリマス。

紀元二千六百年特別觀艦式ニ當リ海軍省海軍軍事普及部委員高瀬中佐ハ當日御召艦比叡艦上ヨリ「ラジオ」ニ依リ左ノ如ク一般ニ放送セリ。

紀元二千六百年特別觀艦式ト帝國海軍

輝ク紀元二千六百年ニ際會シ太平洋ヲ繞ル英・米・蘇等列國ノ軍備充實、大東亞共榮圈確立、歐洲戰爭ノ前途等、複雜セル國際情勢ニ直面シテ居リマス非常時海軍ノ特別大演習ニ參加シテ、衝力ノ極致ニ達セル我方海軍ノ精銳ハ、今ヤ陣容嚴カニ横濱沖ニ集結シテ、榮アル御親閱ヲ仰ギ、特別觀艦式ノ嚴肅ナル御盛儀ヲ茲ニ進行中デアリマス。

此ノ盛觀ヲ拜シ得タ者ハ云フニ及バズ、一般國民モ亦遙ニ嚴肅ナル光景ヲ、御召艦上ヨリ實施セル「ラジオ」ノ中繼放送ヲ通ジテ、我が精銳ナル海軍ノ存在ハ如何ナル意義ヲ有スルカ、深ク帝國海軍ノ立場ヲ檢討シテ、些方所見ヲ述ベテミタイト思ヒマス。

我が國ノ觀艦式ニハ特別大演習ノ際ニ行ハレルモノト、今回ノ如ク國家ノ大典ノ場合ニ行ハレルモノトノ二通りアリマスガ、孰レモ、畏クモ 大元帥陛下ガ、親シク帝國海軍ノ軍容ヲ御親閱遊バサレル御儀式デアリマス。

帝國海軍ノ將兵ハ、御親閱ノ光榮ニ浴シ得タモノハ勿論、作戰及ビ海外警備其ノ他ノ爲此ノ盛儀ニ參列シ能ハザルモノモ、齊シク此ノ盛儀ニ際シ、光輝アル帝國海軍ノ歴史ト傳統トヲ回顧シ、其ノ有スル重大ナル責務ニ對シ、益々盡忠報國ノ念ヲ堅クシ、至誠一貫、護國ノ大任ヲ全フセンコトヲ誓フ次第デアリマス。

今ヨリ六百年前、皇紀二千一年(西曆一千三百四十一年)、英國ノ「エドワード」三世ガ、英佛戰爭ニ出征シタ時、自國ノ艦隊ヲ閱シタノガ世界ニ於ケル觀艦式ノ最初トイハレテオリマス。

我が國デハ、畏クモ 明治天皇ガ、明治元年三月二十六日、大阪ノ天保山沖デ御親閱遊バサレタノヲ以テ、ソノ最初ト致シマス。

ソノ時ノ艦數ハ、僅ニ六隻、肥前藩ノ雲流丸ガ指揮艦デ、肥後藩ノ萬里丸、久留米藩ノ千歲丸、長州藩ノ華陽丸、藝州藩ノ萬年丸、薩摩藩ノ三邦丸ガ從ヒマシタ。

明治天皇ニハ、陸上カラコレラノ諸艦ヲミソナハセラレマシタ。

コノ時ノ艦ノ總排水量ハ、二千四百五十二噸デアリマシタ。

コレラノ艦ハ、諸藩ガ、皇室ニ、コノ時、献上シタモノデソレヲ天覽遊バサレタノデスカラ、正式ノ觀艦式トハ呼ビ難イカモシレマセン。

明治二十三年四月十八日ニ、神戸沖デ、本格的ナ最初ノ觀艦式ガ行ハレマシタ。

參加ノ艦ハ、扶桑以下ノ十九隻、水雷艇モ加ハリ、總排水量ハ、三萬二千三百二十八噸デ、天保山沖ノ噸數ノ約十三倍デアリマシタ。

明治天皇ニハ、高千穂艦ニ御召シ遊バサレ、艦隊ヲミソナハセラレマシタ。

コレラノ艦隊ガ、四年後ノ日清戰爭デ大活躍シ、黃海ノ海戰デ大捷ヲ博シマシタ。

日露戰爭ノ終ツタ明治三十八年十月二十三日ニハ、横濱沖デ凱旋觀艦式ガ盛大ニ行ハレマシタ。分捕艦モ混

ジヘテ百六十六隻、三十二萬餘噸ニ及ビマシタ。

飛行機が觀艦式ニ参加スル様ニナツタノハ、大正元年十一月十二日、横濱沖ノ大演習觀艦式ノ時デ、二臺参加シマシタ。

昭和十一年ニ行ハレマシタ特別大演習觀艦式ハ、大規模ナル移動觀艦式デアリマシタ。

特別觀艦式ハ、帝國海軍創設以來、實ニ第十八回デアツテ、畏クモ今上陛下御親閱第六回目ノ觀艦式ニ當リマス。

次ニ横濱沖ニ於ケル觀艦式トシテハ、明治三十八年十月二十三日ノ凱旋觀艦式、大正元年十一月十二日ノ大演習觀艦式、大正四年十二月四日同五年十月二十五日ノ恆例觀艦式、大正八年十月二十八日ト昭和二年十月三十日ト昭和八年八月二十五日ノ大演習觀艦式、昭和三年十二月四日ノ大禮特別觀艦式ガ數ヘラレマスガ、今次ノ特別觀艦式ヲ併セ實ニ第九回目ノ觀艦式デアリマス。

今回ノ觀艦式ニ於ケル參列艦船ハ、御召艦比叡ヲ始メ戰艦・航空母艦・巡洋艦・驅逐艦・潜水艦其ノ他ヲ併セ總計百餘隻ニ上リ參列飛行機モ五百餘機ノ多數ヲ算スルモノデ帝國海軍第一線兵力ノ根幹ヲナスモノデアリマス。

而シテ、之等水上部隊・飛行機隊ノ順序ニ、畏クモ特別大演習ヲ御統監遊バサレル 大元帥陛下ノ御親閱ノ光榮ニ浴シタノデアリマス。

猶茲ニ申添ヘ置キ度イコトハ此等參列艦船ノ外ニ前線ニハ多數ノ艦艇及飛行機ガ事變處理ノ爲メ作戦中ニア

ルコトデアリマス。

我が國ハ太平洋上ニ國土ヲ有スル四面環海ノ島國タル特質上、外國トノ關係ハ云フニ及バズ、大陸トノ間ハ勿論、國內相互間ノ交通・運輸・物資ノ需給等ニ至ルマデ、悉ク海洋ニ依存シテ居ルノデアリマシテ、有事ノ場合ヲ考慮スレバ、ソノ致命部ヲ海洋ヨリノ攻撃ニ曝露シタル姿勢ニアリマス。

帝國ハ、國土狹小、天然資源豊カナラズ、爲ニ國民生活ニ不可缺ナル衣食住、其ノ他ノ諸原料ノ主要部分ヲ、海外ニ仰ガネバナラヌ立場ニアリマス。

支那事變勃發以來東亞ノ盟主トナツテ東亞共榮圈ノ確立ヲ期シツツアル帝國ガ共榮圈内ニ含まル諸國トノ連絡ヲ確保シ共榮ノ實ヲ舉グル爲メニハ西太平洋ヲ磐石ノ泰キニ置カネバナラヌコトハ嗚々ヲ要シナイ所デアリマシテ、國家ノ新體制モ高度國防國家ノ建設モ基調ヲ此ノ點ニ置クベキデアリ巷間傳ヘラルル日獨伊軍事同盟締結ノ結果我が帝國ガ海洋國家ヲ離レテ大陸國家トナレリトナスガ如キ近視眼的謬論ハ國民ヲ誤ルコト甚シキヲ痛感スルモノデアリマス。

斯ク觀察スルトキ、我が國ハ、西太平洋ヲ媒體トシテ、領土相互ヲ結合シ、國民生活ヲ維持シテキルノミナラス、國家生存ノ致命部ヲモ之ニ依托シテキルト云ツテヨイノデアリマス。

換言スレバ、西太平洋自體ガ、我が國ノ生命組織デアツテ、我が國ハ其ノ生存・防衛及發展ヲ舉ゲテ之ニ依托シアルモノト考ヘザルヲ得ナイノデアリマス。

西太平洋コソハ、我が國ノ依存スル重大生存海面デアツテ、西太平洋ニ於ケル我が立場ハ、列國ノソレト其

ノ根柢ヲ異ニシテ居リマス。

帝國ハ事變勃發以來東亞新秩序ノ建設ヲ目指シ終始、眞摯ナル努力ヲ傾倒シテ、東亞共榮圈ノ確立ニ邁進シツツアルガ故ニ、萬一帝國ノ眞意ヲ曲解シ帝國ノ行動ヲ阻止セントシテ西太平洋ノ平和ヲ脅スガ如キモノアル場合ハ、帝國トシテハ、之ニ對シ斷乎タル處置ニ出デザルヲ得ナイト云フコトハ、何國ト雖モ齊シク了解シ得ルトコロデアリマス。

我が海軍本來ノ使命トスルトコロハ、國防ノ大任ヲ擔ヒ、戰時ニ當リテハ、敵ノ艦隊ヲ擊滅シ、海上權ヲ掌握シテ國家ノ存立ヲ確保シ、平時ニアリテハ、其ノ儼然タル武威ノ存在ニ依リ、對手國ヲシテ我ヲ覬フコト無カラシメ、以テ我が海外經濟發展ヲ支援シ、或ハ彼ノ野望ヲ拋棄セシメテ、戰爭ノ慘禍ヲ未然ニ防止シ、東洋平和ノ維持、進ンデハ、人類ノ幸福ト福祉ノ増進ニ貢獻セントスルニアリマス。

戰時ニ敵ノ艦隊ヲ擊滅シテ、海上權ヲ獲得スルコトノ極メテ緊要ニシテ、國土直接ノ防衛上不可缺ナノハ、縷々説明ノ限リデハアリマセンガ、海ガ交通運輸ノ至上ノ要衝タル以上、一國海上權ノ消長ハ、平時ニ於ケル海外經濟發展ニ至大ノ影響ヲ及ボシ、延イテハ、其ノ國運ノ盛衰ヲ決スベキハ、古今東西ノ歴史ニ顧ミテ炳デアリマス。

我が海軍ハ、其ノ使命ニ立脚シ、一朝有事ニ際シテハ、全能ヲ發揮シテ來攻スル外敵ヲ擊滅シ、西太平洋ノ平和ヲ確保スル「必勝ノ信念」ヲ有シテ居リマス。

コノ實力ノ滿ヲ持スル兵力ニシテ、始メテ克ク其ノ平時ノ使命タル戰爭ノ慘禍ヲ、未然ニ防止スルコトガ出來得ルノデアリマス。

今ヤ、世界ノ一大轉換機ニ遭遇シ帝國内外ノ情勢ハ、極メテ重大時機ニ直面シ、太平洋ノ波高シノ感ヲ我等一億同胞齊シク痛感スルノ秋我が海軍ノ責務ハ、益々重大ヲ加ヘテ參リマシタト同時ニ戰爭ガ國家總力戰トナリマシタ今日舉國一致此ノ重大時局ニ善處セネバナリマセヌ。

斯クテコソ、海洋國日本ヲ磐石ニ置キ、平和ノ確保者トシテノ海軍ニ、東洋ノ安定勢力トシテノ日本ニ、一層ノ光輝アラシムル所以デアルト確信致シマス。

明治元年、大阪灣デ行ハレタ第一回ノ觀艦式ノ參列艦船ガ六隻、二千四百五十二噸デアツタノニ比シ今次紀元二千六百年特別觀艦式ノ參加艦艇ガ百隻ヲ超ヘ總噸數ニ於テ數百倍ニ及ビ更ニ多數ノ飛行機ヲモ加ヘマシタコトヲ考フルトキ、我々國民ハ、海洋國日本躍進ノ表象タル今日ノ帝國海軍ノ威容ニ接シテ誰シモ感激ト矜持トヲ新ニスルコトデアリマセウ。

帝國海軍コソハ、我が皇室ノ御稜威ト國民ノ偉大ナル努力ト我が海軍將士ノ義勇奉公トニ依リ整備發達シテ、平戰時ヲ通ジ、帝國ノ國運隆昌ニ、光輝アル寄與ヲ爲シ來ツタモノデアリマスルガ、今日ノ如ク、帝國内外ノ困難ナル情勢ニ鑑ミ、我々ハ、此ノ盛儀ニ際シ、只々、ソノ壯觀ニ快哉ヲ叫ブノミデナク、帝國ノ發展ニ對スル我が海軍ノ責務ノ重大性ヲ切實ニ痛感スル次第デアリマス。

尙ホ十月一日紀元二千六百年祝典ノ一トシテ特別觀艦式ヲ舉行アラセラルル旨海軍省ヨリ公表セララルルニ當

り、同日海軍省海軍軍事普及部委員長ハ左ノ如キ謹語ヲ發表セリ。

海軍軍事普及部委員長謹語

來ル十一日横濱沖ニ於テ紀元二千六百年特別觀艦式ヲ御舉行アラセラルル旨本日公表セラレマシタ、本觀艦式ハ光輝アル紀元二千六百年ノ祝典トシテ執行ハセラルル次第デアリマス。時恰モ未曾有ノ非常時局ニ際會シ、帝國ハ聖戰ニ從事スルコト既ニ三年有餘、今回新ニ獨伊兩國ト條約ヲ締結シ、相共ニ携ヘテ東亞及ビ歐洲ノ地域ニ於テ新秩序ヲ建設シ進シテ世界平和ノ確立ニ邁進スルコトトナツタノデアリマシテ、四圍ノ情勢ハ愈々帝國海軍ノ責務ノ重大性ヲ倍加スルニ至ツタモノデアリマス。此ノ秋ニ當リ、畏クモ 大元帥陛下親シク艦隊ノ威容ヲ瞻ハセラレマスコトハ帝國海軍トシテ無上ノ光榮デアリマスト共ニ寔ニ恐懼感激ニ堪ヘナイ次第デアリマス。我等海軍軍人ハ愈々 聖旨ヲ奉體シテ練武ニ精進シ以テ時艱ヲ克服シ誓ツテ護國ノ大任ヲ全ウセンコトヲ期スル次第デアリマス。

第九輯 恩 典

第一編 恩賞及恩賜

第一章 概 說

政府ニ於テハ、紀元二千六百年ニ當リ、社會事業・殖産興業・文化・風教等ニ關シ功績顯著ナル勤勞者ニ對シ敍位・敍勳・賜杯等ノ行賞ヲ行ハセラルル様奏請ヲ爲サムガタメ、平沼内閣總理大臣ハ太田内閣書記官長及稲田内閣書記官ニ對シ、大正・昭和兩大體等ノ先例ヲ斟酌シ、行賞ノ方針・行賞ノ標準等ヲ調査立案スベキ旨命ジタリ。斯クテ慎重ナル推究ヲ遂ゲタル結果、昭和十四年七月二十日「紀元二千六百年行賞要綱」ヲ決定シ、太田内閣書記官長ハ命ニ依リ同年八月十日次官會議ニ於テ之ヲ各省次官ニ内示セリ。

「紀元二千六百年行賞要綱」ハ左ノ如シ。

紀元二千六百年行賞要綱

第一 行賞ノ大體方針

一 行賞ノ種別

敍 位